

図書館だより

2020年
7月号

2020年7月10日発行

学校生活が再開して、1ヶ月が経ちました。分散登校から通常登校に戻り、ひさぶりにクラスメイトが揃っての学校生活が始まりましたね。少しずつ元の生活が戻ってきていますが、うがい手洗い、ソーシャルディスタンスなどに加え、熱中症予防としてこまめに水分補給もしていきましょう。

1年生も部活が決まり、頑張っていることと思います。少しずつ生活のリズムも掴めてきましたか。図書館を利用してくださっている姿もたくさん見かけるようになり、嬉しく思っています。館内の検索機でのみ行っていた本の検索がインターネットからできるようになりました。教室に掲示している新着案内もそちらに掲載していますので、本を探すのに活用してください。検索の仕方については全校生徒へクラッシーで配信していますが、わからないことがあればいつでも司書に声をかけてください。



好きな色や柄を選んで手作りマスク

594-ア 『かんたん手づくりマスク』 アズマ カナコ || 著 小学館

マスクが品薄状態になる中で、手作りマスクを着用している人が多く見られるようになりました。マスクといえば、白のイメージでしたが、今では様々な色や柄の布を使ったかわいいマスクがたくさんあります。自分でも作ってみたいと思っている人にはこの本をおすすめします。作り方だけでなく、布選びのポイントや洗濯の仕方も載っていて、とても親切です。

毎日着けるので何枚あっても困らないですし、基本のマスクが作れるようになったら、プリーツマスクや立体マスクにも挑戦してみてください。

図書館を愛する人に贈る物語

913.6-ナ 『夢見る帝国図書館』 中島 京子 || 著 文藝春秋

現在、東京上野にある国際子ども図書館は、1906年(明治39年)に帝国図書館として建設されました。日本初の国立図書館として誕生したこの帝国図書館を主人公にした物語と、喜和子という名の図書館を愛する女性の物語が1冊の中で交互に紡がれていきます。帝国図書館の歴史には樋口一葉や谷崎潤一郎など多くの文豪が登場し、図書館と文豪の関わりを知るおもしろさがあります。不遇な環境を嘆く司書の様子から図書館の扱われ方が見えてくるのも図書館史を知る上で勉強になりますし、喜和子さんの謎に満ちた人生の物語が帝国図書館とどう繋がっていくかも読みどころです。

始めよう、地球にやさしい生活

7月1日からプラスチック製買物袋の有料化が始まりました。これまでは商品を買えば当たり前のようにレジ袋がついてきていた袋が有料になったことにまだ慣れない人もいます。レジ袋だけでなく、ペットボトル、文房具、衣類、電化製品に至るまで、私たちの暮らしには思っている以上にプラスチック製品の利用が浸透しています。しかし、プラスチックは地球の環境問題に大きく影響を及ぼしています。この有料化を機にエコバッグを使う習慣を身につけ、プラスチック製品の過剰な使用を抑えていきましょう。ひとりひとりの小さな心がけて地球の未来を変えていけるはず。

519-タ 『プラスチックの現実と未来へのアイデア』 高田 秀重 || 監修 東京書籍

軽くて丈夫、加工しやすい、経済的に優れているなど、プラスチックは利点の多い素材です。しかし今、生産・消費・廃棄されたプラスチックによる海洋プラスチックごみ汚染が問題になっています。実際にどんな事態が起きているのかを知り、プラスチック削減への意識を高めていきましょう。

594-レ 『今こそ持ちたい 手作りのエコバッグ』 ブティック社

今まで以上に使う機会が増えるであろうエコバッグは、色々な形や大きさのものを揃えておきたいアイテムです。お裁縫初心者にも作りやすい形のものから、いくつあっても便利なレジ袋型、荷物が多い時に役立つリュック型など、豊富なデザインから好みのものを作ってみてください。

こんな本もおすすめ！

😊 519-キ 『みんなが知りたい!「地球のしくみ」と「環境問題」』 メイツ出版

😊 675-ツ 『エコバッグ・ブック』 塚本 太郎 / 赤木 真弓 || 著 産業編集センター

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

今月はひさぶりに湊かなえさんの本を読みました。湊さんといえばデビュー作『告白』のインパクトが強く、その後に読んだ『リバーズ』の結末にも「こんな終わり方をするなんて…」と衝撃を受けたこともあり、最後の最後まで気を抜いたらいけない作家さんというイメージが私の中でついています。

『落日』(913.6-ミ 角川春樹事務所)では田舎町で起きたある1つの事件を二人の女性の視点から追っていきます。映画監督としてこの事件を撮りたい香の「知りたい」という思いと、香から映画のための脚本を依頼された千尋の「見たい」という思いが解決したはずの15年前の事件の新たな真実を明らかにしていきます。ページが進むにつれ読者にも真実が見えてきますが、「まだきっと何か隠されているはずだ」と何度も気を引き締めながら物語の行方を見守りました。ラストに待っていたのが何だったのかはここで話せませんが、私はこういう展開を持ってくる湊さんもいいなと思いました。みなさんはどうでしょうか。【今井】

🌠 図書館で出会う！～【宙（そら）】に出会う編～ 🌠

関東が梅雨入りして約1ヵ月。雨の日ならではの風情を感じて過ごしつつも、そろそろ青く澄み渡る空が恋しくなってきました。梅雨明けを待つ間、本でたくさんの空を楽しんでもらえるよう、今月は図書館で

【宙（そら）】と出会う本をみなさんに紹介したいと思います。

美しい空に癒される本、地球を飛び出して宇宙を楽しめる本、夜空を見上げたくなる本など、色々な宙（そら）に出会う本を展示しています。空を覆う雲の向こう側を思い浮かべながら読書のひとときを過ごしてください。

◆展示本リスト◆

- 296-チ 『世界遺産 マチュピチュ 完全ガイド』 「地球の歩き方」編集室 著 ダイヤモンド社
→ 天空に浮かぶ都市マチュピチュ。謎に包まれたこの地を旅した気分になってみましょう。
- 440-ミ 『宇宙の地図』 観山 正見/小久保 英一郎 著 朝日新聞出版
→ 地球を離れ、宇宙の果てまで出かけてみませんか。宇宙の景色の綺麗さに心を奪われます。
- 443-ナ 『星空図鑑』 永田 美絵 著 八坂 康磨 写真 成美堂出版
→ 星の探し方や名前、神話のことがやさしく解説されていて、夜空の楽しさを発見します。
- 451-タ 『すごい空の見つけかた』 武田 康男 著 写真・文 草思社
→ 空の現象を探すポイントを押さえ、感動するすごい空に出会うチャンスを掴みましょう。
- 748-タ 『そら色の夢』 高砂 淳二 著 パイ インターナショナル
→ いつまでもずっと見ていたくなるような美しい空が集められた写真集です。
- 911.5-ナ 『だから優しく、と空が言う』 中島 美月/HABU 著 PHP研究所
→ 『まっさらな空に向き合うとほんとうの自分がよく見える』空と言葉に癒される本。
- 913.6-サ 『夜の光』 坂木 司 著 新潮社
→ 個性豊かな天文部4人の青春ストーリー。学校の屋上での楽しそうな観測会、憧れます。
- B933-ウ 『火星の人』 アンディ・ウィアー 著 早川書房
→ 不運にも火星に取り残された探査船クルーのワトニーは生きるために全力で奮闘する。

この中でも、いちおしなのは…

B933-ウ 『火星の人』 アンディ・ウィアー 著 早川書房

火星探査をしていたクルーたちは砂嵐によって調査を断念、火星を離脱することになった。だが、クルーのマーク・ワトニーが重なる不運によって火星に取り残されてしまう。命はあるものの、火星に独りぼっちという絶望的な状況に置かれながらも、ワトニーは持ち前の明るさで生き延びるためには何をすべきかを考えながら行動を始めます。そこに生きてくのが数学や理科の知識です。火星で奮闘するワトニーの姿は、豊富な知識が身を救うことを教えてくれます。頑張れワトニー！

🚚 新着本コーナーの気になる1冊 🚚

596.6-テ 『魔法のてぬきおやつ』 てぬキッチン 著 ワニブックス

楽チンに、おいしく、失敗しないでお菓子を作れる本当に魔法のような本です。材料2つだけで作るアイスやクッキー、フライパンでプリンケーキ、牛乳パックでレアチーズケーキ、レンジで和菓子など、「こんなに簡単に作れちゃうの!？」と驚いてしまうおいしそうなレシピがたくさん載っています。私はヨーグルトアイスを作ってみました。さっぱりとした味わいが気に入り、リピートしています。



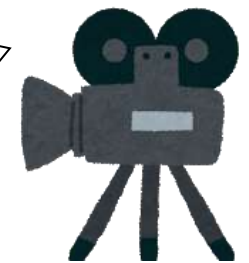
720-ア 『絵を見る技術』 秋田 麻早子 著 朝日出版社



この本で身につくのは、絵の観察の仕方です。今までの見方が間違っているというのではなく、自分の感性を尊重しつつ、絵の中の何をどう見ることで鑑賞がより楽しくなるかを教えてくれています。出だしのプロが絵を見た時の視線の動かし方を読むだけでもこの本のおもしろさが伝わってきて興味を引かれると思います。絵のプロである美術科結城先生が「これは素晴らしい!」と大絶賛した1冊です。

913.6-ア 『イマジン?』 有川ひろ 著 幻冬舎

「どこで小説を書くかではない。どう小説を書くかだ」
作者は縁を大事にするしるしとして 2019 年に有川浩から有川ひろに改名しました。けれど、『図書館戦争』でみせた、仕事に情熱を注ぐ登場人物たちの熱い物語の勢いは変わりません。映像制作会社「殿浦イマジン」の新人良井は『空飛ぶ広報室』や『植物図鑑』を思わせる作品の映像化の仕事に奔走します。未来を作り出すのは、イマジン!?



913.6-ヒ 『クスノキの番人』 東野 圭吾 著 実業之日本社



クビになった会社へ強盗に入り捕まった玲斗が諦めの思いでいると、ある人から救いの手が差し伸べられた。ただし、そこには釈放後は「クスノキの番人」になるという不思議な条件がついていた。願いが叶うクスノキの力は本当なのか、人々は木に何を祈っているのか、なぜ自分が番人を任されたのか、何もわからないまま玲斗の新たな生活が始まる。彼はそこで今までの自分を変えることができるのか。